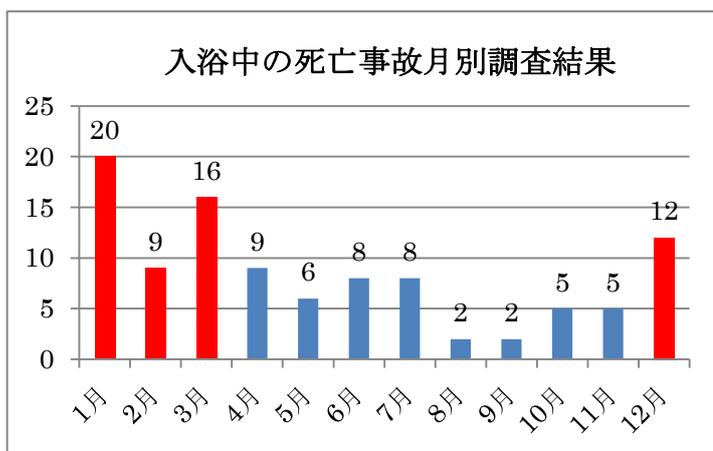


## 入浴中の死亡事故を防ぎましょう！ ～名取市消防署からのお願い～

入浴中の事故で死亡する人は全国で年間 17,000 人にのぼりこの数字は交通事故による年間死亡者数 4,400 人と比べ大幅に上回ります。しかし、現在市民の皆様に対し注意喚起や予防対策などのメッセージはほとんどなされておりません。

そこで今回、名取市、岩沼市、亶理町、山元町において過去 5 年間に発生し、救急車が出場した入浴中の死亡事故について調査分析し、予防策について検討しました。

その結果入浴中の死亡件数は、5 年間で 107 件、年間 20 件以上も発生しており、性別では男性 60 名、女性 47 名で、年齢は 65 歳以上の高齢者が 92% を占めました。発生は浴槽内（水没型）が 70% 以上に見られました。月別でみますとこれからの季節冬期間 12 月～2 月にかけて集中しており、また寒暖の差が大きい 3 月も多発しておりました。（下記図参照）



死亡例の病歴を調査してみると循環器系疾患が 28% と最も多く、次いで脳疾患 12%、糖尿病 11%、精神疾患 6% でした。また、飲酒後の入浴事故も少なからず見られました。

今回の入浴事故は冬期に集中して発生しており、脱衣所と浴室の温度差が大きいのが一因と思われました。脱衣所に温風機等を設置し、環境温度の変動を少なくするなどの工夫が必要かと思われます。特に循環器系疾患や脳疾患を有する高齢者のいらっしゃるご家庭では十分な注意が必要となってきます。

また、死亡例では浴槽内への水没型が多いことから、“肩までお湯に浸かる”日本特有の習慣の影響も考えられます。肩まで浸かるのではなく、胸元以下の半身浴が奨められます。半身浴でも血液は循環しており体全体は十分に温まります。

水没を防ぐ対応策としましては、浴槽の内側に目立つ色のテープで線を引き、お湯の量を従来の 3 割程度減らしてはいかがでしょうか。これを全家庭で実施なされれば、入浴中の死亡事故予防になると同時に、節水、省エネにもつながると思われまます。さらに、飲酒後の入浴は避ける。高齢者の方が入浴する場合は御家族が声掛けをしてあげる。また『お孫さんと一緒の入浴』も奨められます。



アドバイザー：総合南東北病院 副院長・救急センター長 赤間 洋一 先生